

織工房 KAWAGUCHI → P30

消費税サービス！

しんまつの湯パラダイス → P30

まんが大量完備！大型ジャグジー風呂完備！

自家製天然酵母パン「バオ」→ P30

シュトーレン販売開始！

■チケットプレゼント

「DOMANI・明日展」……10組 20名様

月刊
新
公
司



「ふれあいネットまつど」被災地支援報告 被災地でパラソル喫茶をオープン

私たち「NPO法人たすけあいの会ふれあいネットまつど」は、東日本大震災発生以来、被災地への支援活動を続けています。震災発生当初は、主に瓦礫の撤去や側溝の掃除といった力仕事をするボランティアが求められ、当会の会員にとってなかなか厳しい状況でした。そうした中、私たちにできる支援活動を模索しているときにパラソル喫茶

の活動を知りました。

パラソル喫茶とは、1995年に起きた阪神淡路大震災で被災者支援の取り組みの一つとして生まれたもので、ともすれば孤立しがちな仮設住宅で暮らす人々の語らいの場として、また地域コミュニティの再生の場として開催するオープンカフェのこと。今回の震災でも各地で開催され、私たちも取り組むことになりました。

● 活動の流れ

現在私たちは、毎月第1日曜日にオープンカフェを開いています。11月5日(土)も、ボランティアバスで松戸市を出発しました。1泊2日の短期間ということもあり、今回の参加者は、過去

「ささえ愛山元・サービス愛広館」で、中村理事長がスライドを使って被災地の様子を説明。愛広館も津波の影響を受け、10月に再開したばかり。



「ささえ愛山元」の事務所は津波によって流され、何人も職員が亡くなりました。その現場で献花を。



JR常磐線坂元駅。海から1kmもなく、津波で駅舎もろとも流された。この辺り一帯は住宅地が広がり腫やかだったが、現在は草木が生い茂るだけで何も無い。

最多の32名でした。

翌6日(日)、ひびき工業団地内仮設住宅(宮城県東松島市)で、第7回パラソル喫茶をオープンしました。当日は、あいにく小雨が降る冬の寒さ。

それでも事前に作ったチラシを各戸に配布し、声掛けを行ったこともあって多くの方が集まってくださいました。

今回は、おしるこやホットドック、コーヒーなど温かい食べものを用意。皆さんたくさんのご苦勞をされているにもかかわらず、本当に笑顔が素敵でした。こうして開催を重ねるうち、「また来たのね!」「今度いつ来るの?」といった嬉しい声もたくさん聞かれるようになりました。

前日には、10月に呼びかけた「あったかじゅうたんを贈ろうキャンペーン」のホットカーベットも届き、みなさんの話題になっていました。

● 観光も忘れずに

被災地の経済活性化のため、亘理町のはらこめしや、山元町のリンゴ園、仙台銘菓、仙台牛タン、仙台味噌も堪能してきました。

これから冬本番を迎えます。寒さがますます厳しくなっていますが、中には暖房設備もなく、断熱もされていない仮設住宅もあります。ふれあいネットまつどでは、今後も引き続き、被災地支援を行なっていきます。

仮設住宅の皆さんと、届いたホットカーベット。



仮設住宅。断熱効果が薄く、寒さを感じるということ。



会員の西村泰久さんは筋ジスで電動車いすで参加。得意のバルーンアートを披露しました。仙台駅まで新幹線、仙台駅からは当会の福祉車両で移動。